

登録コード	T5A02300	開講年度	2026					
授業科目	建築地盤工学(16T以降)					担当教員	諏訪田 晴彦	
英文授業名	Building Foundation					副担当		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・3時限		対象学生	建築学科3年生
講義室	工C3-202教室			授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】				【授業の達成目標】			
	2 5 Tカリ, 2 3 Tカリ							
	【22T～】共通教育による幅広い教養と、工学の専門分野における基礎学力が身につけている。					地盤の性質を理解し、直接基礎・杭基礎の設計ができるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	防災減災							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	建築物は地盤特性に応じて基礎の計画および設計がなされる。本授業では、地盤の性質、試験方法、地盤調査法等に関する基礎的な知識を学ぶとともに、直接基礎、杭基礎、擁壁等の設計方法を身につける。							
(5)授業計画	第1回 ガイダンス、基礎構造について 第2回 土の分類と物理的性質 第3回 土の圧縮性および圧密 第4回 土のせん断強さおよび土圧 第5回 土圧（続き） 第6回 地盤調査 第7回 直接基礎（１）：直接基礎の設計（液状化判定の演習） 第8回 直接基礎（２）：鉛直支持力（極限鉛直支持力算定の演習） 第9回 直接基礎（３）：沈下 第10回 基礎フーチング 第11回 杭基礎（１）：分類 第12回 杭基礎（２）：鉛直荷重に対する設計 第13回 杭基礎（３）：鉛直支持力における問題（杭基礎の設計演習） 第14回 杭基礎（４）：水平荷重に対する設計および擁壁 第15回 総括、授業アンケート							
(6)成績評価の方法	成績は計3回の演習に対するレポートで評価する。各演習を100点満点で評価し、その平均点を最終評価点とする。なお、レポートの提出期限に遅れた場合は、遅れた日数ならびに遅れた回数に応じて減点する。							
(7)成績評価の基準	「卓越している」：必用項目がすべて正しく記載されている。 「かなり上にある」：必用項目が概ね正しく、計算過程の記述や体裁は十分である。 「やや上にある」：必用項目が概ね正しいが、計算過程の記述や体裁にやや不備がある。 「合格水準にある」：必用項目が記載されており、計算過程の記述によって計算の方針が正しいことを確認できるが、計算に大きな間違いがある。							
(8)事前事後学習の内容	週1回の授業で2単位の授業（90時間の学習が必要） 授業時間30時間（2時間×15回）、自主学習時間60時間（4時間×15回） 自主学習には、予習・復習、レポートの作成時間が含まれる。 毎回1時間程度の予習（教科書を読むこと）が必要である。							
(9)履修上の注意	メールで講義の連絡をすることがあるため、メールを定期的に確認すること。							
(10)質問,相談への対応	原則、メールで対応する（アドレス：suwada@shinshu-u.ac.jp）。							
(11)その他								
【教科書】	林貞夫：建築基礎構造、森北出版、定価（本体3000円＋税）							
【参考書】	指定しない							